

平成24年度第4回 札幌市国民健康保険運営協議会の概要

1 日 時

平成25年(2013年)2月6日(水曜日)午後6時～午後7時52分

2 場 所

札幌市役所 6階 1号会議室

3 出 席 者

(1) 運営協議会委員

14名のうち13名出席

(2) 事務局

保険医療部長、保険年金課長、健診・医療担当課長、収納対策・後期高齢担当課長他

4 議 事

第1号 第二期特定健康診査等実施計画(案)について

ア 説明の要旨

- ・前回に引き続き、第二期実施計画案について審議した。
- ・目標値と見込み対象者数について、札幌市は、第一期計画期間の実績や、今後の実施率向上の取り組み等を勘案して、国の標準とは異なる独自の目標値(平成29年度に特定健診35%、特定保健指導20%)とした。
- ・地域と連携した特定健診・特定保健指導の取り組みを拡大していくことにより、段階的な実施率の向上を見込んでいる。

イ 主な質疑

- ・ほかの政令市の特定健診の実施率の実績は?
→平成23年度速報値で一番高いのは仙台市であり、札幌市は16位。
- ・札幌市の目標値は国の基準からは乖離しているが、これまでの実績をベースに、今後の取り組みを踏まえての目標率としていると思う。取り組みを頑張っていたきたい。

第2号 平成25年度国民健康保険会計予算について

ア 説明の要旨

- ・予算総額は2,094億円となり、札幌市の国民健康保険制度が始まって以来最大となった。
- ・歳出のうち、最も大きな割合を占める療養給付費等については、被保険者数

は減少傾向にあるものの、医療技術の高度化や高齢化の進行等で一人当たり医療費が増える結果、引き続き増加すると見込んでいる。

- ・歳入については、保険料収入は392億円で全体の2割に満たない。国・道の支出金や一般会計繰入金、被用者保険等からの交付金が合わせて全体の7割近くを占めている。
- ・予算収納率については、現年度一般分で平成24年度予算比+1%の89.7%と設定した。
- ・国保医療費適正化の取り組み強化に向け、平成25年度の新たな取り組みとして、効果的な施策につなげていくための医療・健診データの分析と調査を行うこととしている。
- ・さらに新規事業として、地域と連携した特定健診・特定保健指導の実施（出前健診、健診結果説明会、夜間住民集団健診等）を計画している。
- ・これらの医療費適正化事業を進めるため、平成25年度から保険医療部内に「国保健康推進担当課」を創設する。

イ 主な質疑および意見

- ・柔道整復、はり・灸、マッサージの支給申請書の点検強化とあるが、もう少し踏み込んだ制度が必要ではないか。
- ・保険証の個人カード化について、身近な人からも要望されているのでぜひ実現してほしい。

→どのような内容にしていくのか、十分注意しながら検討していきたい。

- ・札幌市国保が行うレセプト内容点検による再審査請求の結果、いくらくらいが返還対象となっているか。

→平成23年度で約9,300万円。

第3号 平成24年度国民健康保険会計補正予算について

ア 説明の要旨

- ・定率国庫負担金について、平成23年度の概算交付額が実績を上回ったため、超過交付となった分を国へ返還する。
- ・財源は国保支払準備基金（平成23年度決算時点で超過交付であることが確実であったため、返還金相当額を積み立てていた）。

イ 主な質疑および意見

特になし。

5 報告事項、その他

(1) 報告事項

- ・国民健康保険の賦課誤りについて、資料に基づき報告を行った。

(2) その他

- ・現委員の任期中最後の協議会となるため、各委員から意見をいただいた。

【各委員からの意見（抜粋）】

- ・予算及び決算について、仕組みについてはおおむね理解できたが、数字そのものが適切かどうかについては、判断する基準がなく意見を言えなかった。
- ・今回の賦課誤りなど、大きな金額の誤りの報告があった。保険料を負担してもらっている市民の信頼を失うことになる。何重にも鋭意改善に努めていただきたい。
- ・国保は国が決めた基準に従うところが多く、意見を言っても実際に変えることが難しいため、限界を感じた。
- ・独自事業においては性善説には頼ってはられない。予算の上限を設けるような、思い切った制度変更が必要と感じている。
- ・ジェネリック医薬品については、先発薬と同じような効果が得られるのかということなどの情報発信をしていけば、上手に使っていただけると思う。
- ・「とくとく健診」の愛称など、協議会で話し合っただけで決めることができたのが良かった。
- ・国保の財政基盤は本当に大変な時期に来ているのではないかと思う。医療費が年々上がっていく中で、健康づくりに重点を置くことが必要と思う。
- ・札幌市の国保の財政が非常に厳しいということが重々わかり、同じ保険者として一緒に考えていかなければならないと思う。また、高齢者医療制度に拠出する側の立場でも意見を言わせてもらいたいと思い参加した。
- ・保険料の確保、特に滞納処分関係にはこれまで以上に頑張ってもらいたい。
- ・保険者からジェネリック医薬品の推進が強く求められている。今後、ますます普及促進を図る必要があると考えている。
- ・これから物価が上がり、消費税も上がるとなると、給料が上がらなければ、実質は所得が目減りしたことと同じであり、加入者は保険料の負担を非常に強く感じられることになる。
- ・いろいろな職種、いろいろな立場の方が一堂に会して意見を述べる機会はなかなかなく、有意義であった。
- ・運営に携わっている施設の入所者は全員が国保であり、いろいろな病気になるので、保険は大変助かっている。